

達する、樹枝状色素胞は全体にひろがる。ふ化後31日平均全長21.5mm、平均体重0.17g、褐色であった体色が黄金色にかわり数条の黒色の横縞模様があられる。死餌の魚肉ミンチや配合飼料も良く摂餌するようになる。ふ化後41日目平均全長31mm、最大全長は50mm以上の個体もみられ、平均体重は0.57gとなる。収容魚は群行動するようになり夜間でも同様の行動を行なう。

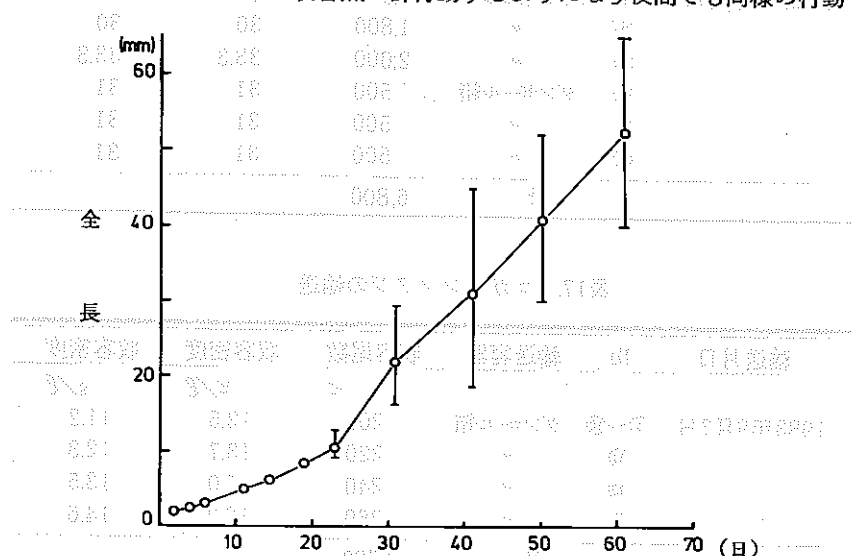


図2. コガネシマアジの成長

Ⅲ ミナミクロダイ、コガネシマアジの輸送及び養成試験

1. 材料と方法

輸送先は冬期海水温が10℃以上、養殖漁業が盛んで消費市場に近接した区域を条件として選定した。

上記条件を満たしていると思われる静岡県沼津市の養殖業者に事業計画の趣旨を説明、了解を得たうえで輸送試験及び養成試験を実施した。

種苗輸送した魚種はミナミクロダイとコガネシマアジで前者は2月下旬にふ化、1t水槽で35日間飼育、12mmサイズの稚魚を海面生簀に冲出し後30日間、中間育成され、平均全長36.9mmの種苗を使用、後者は試験区No.7において飼育、その後生簀No.2～4で継続飼育された平均全長40.6mmの種苗を使用した。

種苗の輸送容器はFRP製コンテナ(49×49×43cm)とダンボール箱(30×60×30cm)を使用、梱包方法は前者について海水を満水入れて種苗を収容、氷塊を1kg入れてふたを密閉後、酸素口から酸素を注入、水位調整口から余分な海水を押し出して約60ℓ海水とし、空間部分は酸素で占められた。後者は二重のビニール袋に8ℓの海水を入れ種苗を収容後、氷塊を300g入れて酸素を注入し、ビニール袋を密封、2袋ずつ入れて梱包した。表16、17に両魚種の輸送状況を示す。

養成試験(ミナミクロダイ)については餌はイワシ類を1週間に6日間投与。4月29日から5月11日まではアミも併用投餌して、1日4回であったが5月12日以降は1日1回とした。